

「アレルギー週間」に関する啓発・掲示

日本アレルギー協会は、日本の免疫学者がアレルギーを引き起こす原因物質を発見したことにちなみ、毎年2月20日を「アレルギーの日」とし、この前後1週間（2月17日から2月23日まで）を「アレルギー週間」と定めています。この期間には、国民にアレルギー疾患に関する理解を深めてもらうため、全国で様々な催しが行われています。

食物アレルギーは、体が本来生きるために必要な食物を「敵」として認識してしまい、過剰な反応を起こすことで生じます。主な症状は、「皮膚が赤くなる・かゆくなる」、「咳が出る」などですが、重い症状の場合には「意識がなくなる」、「血圧が低下してショック状態になる」こともあり、非常に危険です。

アレルギーをおこす原因食品として、子供では卵・牛乳・小麦、大人では甲殻類（えび、かになど）の割合が高くなっています。

平成29年度、保健環境研究所では、「卵」「乳」「そば」について、アレルギーの検査を実施しました。2月には、1階エントランスホールにおいて、食物アレルギーに関するパネル展示、啓発を行いました。

